



# 来年の優秀花につながる花後の管理

花が咲き終わると“ひと息”となりがちですが、すでに来春の菊づくりは始まっています。花後の管理が大切です。花後の管理は、来春、より充実した冬至芽をより多く発生させ、優良なサシ穂を取る為の準備です。さらに、来年よい花を咲かせる為には『どの株から苗取りをするか』親株の選別が重要です。

同じ品種であっても、多少の芽がわりをしている場合が多い為、優秀な花の咲いた株から優先的にサシ穂を取ることが非常に重要になります。

## 花後の管理手順

- ① 花が終わったら早目に花首近くから花を切り落とします。  
(切り花として観賞した株はさらに切る必要はありません)
- ② 液肥を与え草勢回復  
花を咲かせた後は体力が消耗しています。  
消耗した体力を早く回復させることが優良なサシ穂を取るコツです。  
アミノ酸含有量の多い「**みらい**又は**アミノ液肥 555**」がおすすめです。  
うすめ倍率は500～1000倍で2日間隔で2～3回灌水で与えます。  
土も消耗しています。「**土に活**」を併用し、培養土のパワーアップと根を元気にします。
- ③ お礼肥の施肥  
液肥を与え終わったら**乾燥肥料**「**菊養源 665**」又は「**名彩輝**」大サジ 1杯ずつ3カ所に与え、軽く土をかぶせます。(30g～50g) ※増し土をするスペースがあれば、増し土をします。
- ④ 株切り  
冬至芽の発生してない株はできる限り後で切る。  
葉っぱを切り落とすと光合成能力が低下する為、肥料の吸収・消化は悪くなる為です。  
12月末くらいまでには切り落とします。  
枯れたら株元から切る。放置すると病害虫を越冬させる原因となる為、枯れたら早く切り落とします。  
すでに冬至芽が多く発生している場合は3枝を30～50センチ残し、切る。
- ⑤ 冬至芽の間引  
冬至芽は株元に発生するものや、鉢の外周に発生するものがあります。  
冬至芽は内側に発生するものは弱い。外周に発生する冬至芽が強い為、内側に発生したものは切り取り、外周の太くて強い芽を残します。
- ⑥ その他
  - ・できる限り寒さに当てるようにします。・水掛けは5～7日間隔が目安です。
  - ・乾燥肥料は月1回を目安に与えます。
  - ・病害虫は越冬させないよう入念に消毒をします。(株だけではなく培養場全体)
  - ・サシ芽箱を置く場所も忘れずに行ってください。苗の立枯れが出た所は、特に念入りに行ってください。病原菌が残っている場合があり、翌年も発生しやすい。
  - ・ウィルスやわい化ウィロイドに感染した株は焼却処分する。(本来は見つけた時に即処分する) 感染した株は絶対に親株に使わない。

来年も見事な花が咲きますように

2019年11月吉日

ウチダケミカルコーポレーション